

高知追手前高等学校吾北分校

～清流太鼓部全国大会出場～

第30回全国高等学校総合文化祭が8月5～6日に京都府で開催されました。私たち吾北分校清流太鼓部は高知県代表として郷土芸能部門に出場しました。和太鼓部門30校、伝承芸能部門19校の合計49校の参加がありました。

今回は参加した部員の感想をご紹介します。



清流太鼓部2年 川村 薫

全国総合文化祭に参加して

今から約半年前に、私たちの全国総合文化祭への出場が決定しました。最初聞いたときは、驚きと「全国大会に出られる。」という嬉しさでいっぱいでした。でもよく考えると、学校や地域の方々の期待を背負うだけでなく、郷土芸能部の代表として高知県を背負わなければならないことに気付き、強いプレッシャーを感じました。



全国大会では今まで演奏してきた曲に加え、新曲を演奏することになりました。新曲はスピードが速く躍動感のある曲で練習初日から悪戦苦闘の日々が続きました。学校でも毎日のように夜遅くまで練習し、OBの方も仕事帰りに私たちの指導を熱心してくださいました。いくら練習しても上手に叩くことができないリズムがあり、悔しくて泣いてしまったことがありました。その時先輩が「泣くほど悔しいってことは、それほど頑張っちゃう証拠やし涙を流した分上手になれるよ。今は気が済むまで泣いちゃよきや。」と言ってくれました。その言葉が励みになり、練習を繰り返すうちにリズムは叩けるようになりました。しかし、みんなについていくのが精一杯で姿勢やバチさばき、強弱のことを考える余裕はなく、幾度となく大きな壁に当たりました。くじけそうになった時もありましたが、その度に先輩の言葉を思い出して練習に励みました。そして思うように曲が演奏ができるようになった時の喜びは今でも忘れることができません。悔しくて流した涙が嬉しさの涙に変わった瞬間でした。

発表当日は、朝から心臓がドキドキしていました。そして自分たちの出番が近づくとつれ心臓が口から飛び出そうなくらいになりました。「間違ったらどうしよう。」という不安でいっぱいでしたが、指導者から「自分たちの演奏を精一杯したらえい。」という激励を受け、さっきまでの不安が嘘のように「今まで練習してきたことを精一杯出しきろう。」と強く思うことができました。舞台上上がったときは自分でも驚くくらい緊張よりも大勢の観客の前で演奏できる喜びでいっぱいになりました。あっという間に発表は終わりましたが、終了後は今まで一緒に頑張ってきたみんなと全国大会という大舞台で精一杯演奏できた充実感でいっぱいでした。

発表当日は、朝から心臓がドキドキしていました。そして自分たちの出番が近づくとつれ心臓が口から飛び出そうなくらいになりました。「間違ったらどうしよう。」という不安でいっぱいでしたが、指導者から「自分たちの演奏を精一杯したらえい。」という激励を受け、さっきまでの不安が嘘のように「今まで練習してきたことを精一杯出しきろう。」と強く思うことができました。舞台上上がったときは自分でも驚くくらい緊張よりも大勢の観客の前で演奏できる喜びでいっぱいになりました。あっという間に発表は終わりましたが、終了後は今まで一緒に頑張ってきたみんなと全国大会という大舞台で精一杯演奏できた充実感でいっぱいでした。

